

久野康成の

「私なら、こうする！」

非常識な実践経営アドバイス



第34回【就職面接で聞いた話と実際の業務が違っていたのですが……】

【プロフィール】
久野康成(くの・やすなり)
公認会計士。人財開発・東京コンサルティングファーム会長兼CEO。東京税理士法人統括代表社員。1965年生まれ。愛知県出身。滋賀大学経済学部を卒業後、青山監査法人(プライス ウォーターハウズ)入所。監査部門・中堅企業経営支援部門にて、主に株式公開コンサルティング業に携わる。98年久野康成公認会計士事務所を設立。東京のほか、横浜、名古屋、大阪、インドにて「第2の会計事務所として会社を設立。経理部門へのスタッフ派遣・紹介など幅広い事業を展開し、グループ社員総数は360人に上る。著書に『できる若者は3年で辞める!』『2008年版 図解インドの投資・会計・税務の基本』『母性の経営—management therapy』(共に出版文化社)がある。

Question

初めて転職しました。経営企画担当という募集内容に魅力を感じて応募し、面接でも経営企画をさせてもらえるとのことでした。しかし、実際に会社に入ると、新規事業開発の立ち上げの仕事がメインで、結局、営業をさせられています。前職は営業だったので、経営企画が行いたいと思いついたにもかかわらず、同じような営業の仕事になっています。聞いた話と実際が異なるのは問題だと思います。このままこの仕事を続けることが不安です。

(神奈川県 33歳 会社員)

Answer

退職理由を前職の会社のせいにするのは間違い

社員を採用する時、私も面接官をすることがありますが、その時は、必ず前職の退職理由を聞いています。前職を3カ月程度で辞めた人の退職理由で最も多いのが、「面接で聞いた話と実際の業務が違っていたから」というものです。退職理由には、その人の志向性が表れますが、こ

のような場合は非常に問題があります。短期で退職した本人は、自分の責任ではないと思っっているのが特徴です。

さて、なぜ、このような退職理由が多いのでしょうか？

私が独立した当初、正社員を雇うことは大きな経営判断でした。採用した社員が年収600万円、30年働くと考えると、会社の投資金額は1億8千万円です。これほどの大きな投資は、他

には考えられません。

雇う側としては期待もするし、夢も広がります。当時、私は面接官として相手の話を聞くというより、自分の夢や会社のビジョンを一生懸命に応募者に対して語りました。共にこの会社を盛り上げていってほしいと思っただけです。

しかし、やっとの思いで採用した社員が「思っていた仕事と実際の仕事が違う」と言って短期間で当社を去っていった時はショックでした。あれほど期待したのに……。これから一緒に会社を盛り上げていけると思ったのに……。いったい、何が悪かったのかと悩みました。

ここで私が思ったのは、自分と社員との間では、時間軸が異なっていたということです。採用した社員は、自分が今まで経験したことのない新しい仕事を直ぐにしたいと思います。しかも、自分でするというより、教えてもらいたいと思います。

これに対して雇った側は、経験

がないのだから経験のある仕事、できることから徐々に仕事をしてもらい、慣れてくれば新しい仕事をどんどんしてもらいたいと思います。

経営企画ともなれば会社、商品知識、業界知識など、知らなければならぬことがたくさんあります。恐らく、まともにはできないようになるまでには最低でも3年はかかるでしょう。雇った人と、会社が考えている時間軸の差が相当あるのです。

上司の期待に応えれば、 仕事は自分で変えられる

もうひとつ思うのは、試されているということ。私が前職の監査法人時代、最初に任された仕事はコピー取りでした。しかし、このような簡単な仕事を嫌々ながら行うような人には、上司は大切な仕事を任せる気にはなりません。どんな仕事でも与えられたものを真剣にできる人に、最終的には重要な仕事が任されるものです。

上司は簡単な仕事を与えて、部下を試すことがあります。経営企画という重要なポジションに据えるためのトライアルの可能性があります。ここで一気に新規事業を立ち上げれば、会社の中で不動の地位を確保できるチャンスかもしれません。

新規事業の場合、ある程度、軌道に乗れば部下を雇い、実務を任せて自分は全体をコントロールする管理者になることが簡単にできるはず。つまり、新規事業の経営企画から始めればよいのです。

雇う側と雇われる側、つまり経営者と社員では当然、立場が異なります。しかし、経営企画という仕事は、社員というよりは経営者側の思考法を持たなくてはいけません。

働くとは誰かに貢献することです。貢献するためには、自分自身の強みを生かさなくてはなりません。強みとは、過去の経験から生じるものです。新しいことを経験することは、将来の強み

になり、将来の貢献につながります。自分自身のキャリアプランを中心に考えれば、新しいことを経験したいという気持ちは理解できます。

しかし、新しいことを経験できるのは、自分が貢献した結果にしか過ぎないのです。それ自体を目的にしては、経営者の立場に立つことはできません。私たちは、与えたもの以上を得ることはできないのです。何かを得たいのであれば、先に与えなければいけません。

世の中に価値を与え、貢献することが仕事であり、お金や経験を学ばなければ、会社の経営理念を理解し、それを社員に共有させることはできません。

仕事は自分の力で変えていくことができます。今は、働く本当の意味を学ぶ時なのです。

(このコーナーでは、経営に関するよろず相談を読者の皆様から受け付け、実践的アドバイスとしてお答えしております)